江雪

柳宗元

千山鳥飛絶

万径人踪滅

孤舟蓑笠翁

独釣寒江雪

【作者】柳宗元(七七三〜八一九年) 中唐の文書家、詩人、字は子厚(しこう)。河東(山西省永濟県)の出身。少年の頃

より秀才の誉れ高く二十一歳で進士に合格する。唐宋八大家の一人。諸官を経て柳州の刺史で終り同地に歿す。唐宋八大家、唐宋二大の八人の大文学者 韓愈(そんゆ)、柳宗元(りゆうそうげん)(以上、唐)。歐陽修(お

うようしゅう)、蘇洵(そじゆん)、蘇軾(そしよく)、蘇轍(そてつ)、曾鞏(そうきやう)、王安石(おうあんせき)(以上、宋)。
【語釈】*江雪…川辺にふる雪。 *千山…多くの連なる山々。 *萬徑…多くのこみち。 *人しやう…人の足跡。

*孤舟…一その小舟。 *蓑笠…蓑とかぶり笠。 *寒江…寒ざむとしたさびしい冬の川。

【通釈】見渡す限りの山々には飛ぶ鳥の姿も見えず、道という道は雪に埋もれて人の足跡も消えてしまった。それなのに、一その小舟には、蓑笠をつけた老人が、ただ一人寒ざむとした川辺で雪降る中釣り糸をたれている。